

# 所沢市におけるアメサ導入の考え方

## 1 施設の概要

所沢市東部クリーンセンター（埼玉県 所沢市）

1 処理方式	ストーカ炉	5 余熱利用	発電
2 施設規模	230t/日 (115t/日×2炉)		場内の施設の運転、照明に利用
3 稼働開始	平成15年	6 排ガス処理設備	ろ過式集塵機（バグフィルター） 湿式洗煙装置 活性炭吸着塔 脱硝設備
4 停止基準		7 その他	蒸気タービン発電機(2,500Kw×2基)
1) ばいじん	0.01g/m <sup>3</sup> N		
2) 塩化水素	20ppm		
3) いおう酸化物	20ppm		
4) 窒素酸化物	50ppm		
5) ダイオキシン類	0.01ng-TEQ/m <sup>3</sup> N		

## 2 アメサ導入の考え方

### ○ 導入の経過

所沢市東部クリーンセンター建設計画当時（平成12年頃）、所沢市では産業廃棄物焼却施設からダイオキシン類が排出されていたことや、農作物がダイオキシン類に汚染されているという報道により、所沢産の農作物に対する風評被害が発生した。

そのような社会情勢の中、建設地決定後の地元説明会において、アメサ導入の要望が地元住民から出され、所沢市としては特異な状況を考慮し、要望に応えるかたちで導入に至った。

### ○ 稼働状況

アメサで得られたデータは、ダイオキシン類の排出を抑制しつつ、施設の機能及び性能を十分に発揮させる運転・保守・維持管理を行うことに活用している。

ダイオキシン類対策特別措置法で定められた届出には、公定法による測定結果を使用しなくてはならず、アメサのデータは特に公表していない。

国内での導入事例がほとんどないためか、所沢市の担当者も他のアメサ導入施設の状況を把握しておらず、アメサの運営管理については国内唯一の代理店であるグリーンブルー株式会社に一任している。



写真① アメサコントロール・キャビネット外観



写真② アメサコントロール・キャビネット拡大

### ○ 運用状況

所沢東部クリーンセンターでは、1ヶ月連続サンプリングによりアメサを運用している。

データ取得までの流れは、1ヶ月連続サンプリング終了後、グリーンブルー株式会社がそのサンプルを回収し、アメリカにある分析会社へ郵送する。アメリカで分析し、結果が分かるのは、1ヶ月連続サンプリング終了後、約1ヶ月後である。

市の職員は、アメサ本体に触れず、アメサのサンプリング方法および分析方法について検証することができない状況である。

そのため、アメサのデータについては、施設の維持管理の補完的な役割となっている。